

新総合計画に関するパブリックコメント実施概要

1. 第 1 回目

- (1) 内容 「時代の潮流」
「基本構想」
「基本計画・総論」
「基本計画・政策施策別プラン」

(2) 実施期間 平成 18 年 7 月 14 日 ~ 8 月 13 日

(3) 意見数 144 件（意見者 13 人）

2. 第 2 回目

- (1) 内容 「重点プラン」
「区ビジョン基本方針」

(2) 実施期間 平成 18 年 8 月 19 日 ~ 9 月 8 日

(3) 意見数 113 件（意見者 22 人）

意見合計 257 件（意見者 35 人）

意見の概要	
時代の潮流	
新潟市を取り巻く時代の潮流 <ul style="list-style-type: none"> ○ 合併建設計画との整合を。 ○ 「地球環境問題」を加えてはどうか。 ○ 日本経済のとらえ方について、「競争の経済」から「共生の経済」を強めていくところに「分権型政令市」「田園型政令市」の政策実現可能性がある。「分権型」「田園型」の深い意味を考えてほしい。 ○ 合併マニフェストについて触れることは、文章の流れからして違和感を感じる。合併が市の大きな変化要因であることは理解できるが、あくまで、こんな政令市を目指していったという意気込みだけを述べてもらいたい。 	
2.自立と協働の時代へ <ul style="list-style-type: none"> ○ 国民が憲法のもとで諸活動を行うように、新潟市民もあるフレームのなかで活動することになる。そのフレームが市の掲げる「理念」や「目標」であり、それを市民が共有することが大切。このことを素案に盛り込む必要があるか、検討を。 	
基本構想	
1.策定の趣旨 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「地球環境問題」についても言及すべき。 ○ 時代の潮流の後に策定の趣旨がきてしまうと話の流れが折れるように感じる。総合計画がなぜ作成されなければいけないのか、その重要性などは前段として述べられるべきではないか。 	
2.まちづくりの基本的な考え方	
まちづくりの理念 <ul style="list-style-type: none"> ○ いきなりここで「まちづくり」という言葉が出てくると違和感を感じる。一般にまちづくりという言葉でまとめると、都市計画マスタープランや農業構想と何がちがうのかわからなくなる気がする。また、新潟市の多くは農村集落部であり、「むらづくり」としたほうがあっている地域も多いのではないか。 ○ 理念はキャッチフレーズでもある。これでは何を意味しているか分かりづらく、いろいろなフレーズを混ぜ合わせすぎている。シンプルにひとつの文章として理念をまとめてもらいたい。 ○ 何を意図してこの部分があるのかわからない。いつまでも合併を引きずっているようにも思えるし、これは都市計画で議論されるべきもので、総合計画の中にはなじまない気がする。入れるのであれば、総論の土地利用方針の中ではないか。 ○ 「持続可能なまちづくり」を加えてはどうか。 	
目指すまちのかたち <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後目指すべきまちのかたちで、市街地と地域農村部との均衡を図っていく必要がある。 	

意見の概要

3.都市像

- 大地とともに育つの三項目を(農業の魅力づくり)・(綺麗・・・)・(優れたまち・・・)に並べ替える。
- 「食と花」の用語の定義は何か。趣向まとまりが感じられない。
- の中に入っている言葉(分権型政令市,・・・)はいらない。安心方政令市や創造型政令市等は何を意味しているのかわからない。
- 上から順番に分権型の話がでてきているが,合併マニフェストを合わせたほうがよいし,地域の自立や主体性をまず最初に求めるのは乱暴な気がする。
- どのページにも図が挿入されているが,何を意図して作成しているかがわかりづらい。
- 「きれいな環境づくり」はきれいすぎる。「環境・資源エネルギー問題に真剣に取り組むぞ!」という意気込みが伝わるような言葉を。
- 「きれいな環境づくり」に「公共交通」を加えてはどうか。

基本計画

1総論

(2)将来人口推計

- 訂正想定人口は引き下げる。過大推定人口を基に行政施策を策定すると将来,困難が生じる。単純推計人口が保たればよい方である。
- もう少し丁寧に現状と想定を述べるべきではないか。分析も少なすぎる。

(3)土地利用方針

- 「社会資本が既に整ったまちなかへの居住を促進する」とあるが,社会資本が整っていない集落に取り残される人びとの暮らしはどうなるのか。そうした人びとの暮らしが見えてこない。
- 「水と緑のネットワークづくりなど自然を保全し活用する」について,「治水や利水機能」に「保安機能」を加えてはどうか。また,「生物多様性」という観点から,人間以外の生物にとっては貴重な生息空間であることを加えてはどうか。

2施策別プラン

分権型協働都市

1市民とともにまちを育てる

現状と課題

- 「コミュニティの衰退が懸念されている」とあるが,その課題に対する方策がない。NPOなどの自主的な活動を支援し,協働していくことも大切であるが,特に集落部などのコミュニティをどのように誘導していくのかが見えてこない。

(1)地域と行政の協働の推進

地域コミュニティ活動の活性化

- まず市民の意識を高める施策をしないとコミュニティ意識が希薄な昨今の情勢では協働は不可能。

意見の概要

(2) NPO, 企業などとの協働の推進

- 企業力をどのように発揮・誘導していくかについて何も書かれていない。

(3) 市民参加・参画・協働の推進

市民との協働による救命率の向上

- AEDを公共施設へ設置とあるが, 身近に公共施設がない農村集落部も多数ある。今後の高齢社会を見据えた中では, ある地域では集会所レベルまで設置する必要があるのではないか。

(4) 人権尊重・男女共同参画の社会づくり

- 新潟の場合他都市に比べ非常に女性の社会参画が遅れている中で, 真剣に男女共同参画に取り組んでいかなくてはならないし, 特に女性就労者の施策を強化していただきたい。

2個性ある地域づくり

現況と課題

- 「地主文化」とあるが一般的でない。

(1) 地域の特性を活かした地域によるまちづくり

文化施設の整備

- 施策第2階層の削除を。
各地区充足しているので, 新設は不要。既存施設並びに学校, 公民館等の活用をお願いしたい。所有財産を貸し合うなど, ソフト事業に工夫を凝らすことで, 他地区へでかけなくともよくなる。

にいがた地元学の推進

- 「たから」とあるが, あえて平仮名表記にする意味があるのか。

地域における生涯学習への支援

- 地域における生涯学習を積極的に進めるための施設や人材不足は否めない。そのよう基盤づくりには触れないのか。

3市民と行政との信頼のきずな

(1) スマートでスピーディな市役所

市民生活を便利にするための情報化

- 24時間どこでも簡単に電子申請等を行えるようにする必要があるのか。そのための情報通信基盤を整備・構築するために, 無駄な投資となる可能性も高いのではないかと。利便性をもとめるのは大事なことであるが, それが全てではない。

(2) 開かれた市政

広報公聴の充実

- 「市政懇談会」の次に, 「パブリックコメント手続き」を挿入

意見の概要

田園型拠点都市

1 田園型政令市にふさわしいまちの姿

現況と課題

- 農業農村施策の分析と目指すべき方向が足りない。

(2) 田園の保全と自然に配慮した整備

農業基盤等の整備(高生産化と防災)

- 高生産化と防災が農業基盤等の整備でまとめられるのに違和感を感じる。防災という観点できちんと位置づけることには異論はないが、それと高生産化は切り離して進めるべきではないか。

(4) 豊かな自然の保全と育成

海岸の保全と整備

- 海岸侵食をくいとめる方策として、親水性や景観、自然環境に配慮した海岸の整備を促進するだけでは、何の解決にもならないのではないか。
- 森林の適切な管理・育成を進める施策として、地場産木材の需要拡大等を進める必要がある。ここが産業育成に入るかわからないが、そのようなことも加えてほしい。

2 都市と田園が恵みあう関係

(1) 都市と田園のふれあい

水と緑と人のネットワークの形成

- タイトルと、その施策展開の文章とがリンクしていない。水や緑を農業・農村の資源という言葉でイメージするのは難しいし、都市型グリーンツーリズムは一般的にイメージしづらい。

住民の合意による田園景観・集落景観の整備

- 美しい農村景観を取り戻すことは非常に難しい。

農村集落の活性化

- 田園集落に調和した田園住宅の整備を促進するとあるが、田園住宅とはどのようなものを指しているのか分かりづらい。

(2) 大地の恵みをうける

郷土の食文化や農業への理解を深める食育の推進

- 地場農産物の積極的な学校給食への提供を加えた方がよい。また、学校で管理する田畑の積極的な活用もふくめるべきではないか。

3 田園型政令市を際立たせる食と花

現況と課題

- 農水産物とあるが、林が抜けているのではないか。地場産木材の需要拡大も図っていく必要がある。

意見の概要

(3)収益性の高い農業の確立

高収益品目の導入と生産拡大

- 最後に水田農業経営の確立を図るとあるが、前段の文章と合わない。

園芸産地の拡大(野菜・果樹・花)

- 機械化・施設化の促進によると簡単に書いてあるが、現在の農業経営の中でそれだけの設備投資をすることは困難なことのよう思う。もう少し、こういう方向性で機械化や施設化を促進していく、ということに触れたほうが、市の姿勢も見えよ。

売れるおいしいお米の生産を修正

- 「日本一の米のデパートづくり」はどういう意図なのか。

畜産物の安定生産

- 自給飼料の給与拡大とはどのようなことか。イメージできない言葉であると感じる。

(4)農業の新たな可能性を拓く

- バイオリサーチパークには言及しないのか。

農産物の輸出の促進

- 国内消費の伸び悩む中で、きわめて重要な施策であるが、東アジアなどとはなっているが、よりグローバルな視点で新潟の農業の位置づけ・価値付けを図っていかねばならない。主要輸出先ということだけでなく、その他の国に対する積極的な販路改革を進めていただきたい。

耕畜連携の推進による再資源化

- 敷きわら利用のほか、堆肥循環施設建設の支援の追加を。

(5)新鮮でおいしい水産物の供給

新鮮でおいしい水産物の供給

- 「食の幸せ」は意味がわからない。

日本海交流都市

1都市を活気づける交流人口の拡大

現況と課題

- 最初に農産物の話がでてくるが、一番最初にもってくる内容ではない。
- 公共交通機関によるアクセス性にも優れ、とあるが、必ずしも公共交通機関が充足しているとはいえないのではないか。利便性を追求するのであれば、道路交通以外の新たな公共交通機関の導入を図っていく必要がある。
- 新潟は拉致者の日本海の最大のまちであり、港まちであり、それなりの特別のアピールのまちとして表明すべき。

意見の概要

3産業が生まれ育ち都市がにぎわう

(3)既存産業の振興

- 施策第2階層を追加
政策税導入の検討

(6)企業誘致の推進

- 施策第2階層を追加
優良農村工業団地の開発を行い大手企業、工場の進出を推進する。

4日本海政令市の拠点性の強化

- 新潟電鉄廃線跡地(新潟～燕間)の交通機関路の整備取組を掲げる。

現況と課題

- 将来的な新公共交通機関の(新潟地下鉄)建設計画の取組みを追加すべき。

(3)拠点性を高める広域交通ネットワークの構築

- 施策第2階層を追加
新潟地下鉄建設計画調査

5賑わうまちなか

- にいがた地下街の閉鎖廃止掲げる。新潟地下鉄建設計画再利用調査に掲げる。

くらし快適都市

1毎日の安全な暮らしを守る

(4)防災体制の強化

災害応急対策の充実

- 災害時に避難所として使用する学校施設等を災害に耐え得るよう改修する必要がある。

2心豊かに健康でいきいきすごす

(1)自ら進める健康づくり

介護予防の推進

- 家に閉じこもりがちなひとり暮らし高齢者が気楽に参加するためには自治会単位で設置した通所施設を設置する、と明記すべき

(2)市民とともにすすめる健康づくり

- 施策第2階層を追加
中高年一定年齢者への人間ドック助成

(3)食育の推進

- 施策第2階層を追加(と の間に)
地域の農産物、季節感の農産物の食育指導

意見の概要

4こどもたちの健やかな育ちの支援

(1)子育て支援の充実

- 施策第2階層を追加
地域学童保育体制, 施設の整備充実
- 施策第2階層を追加
 - 中学生等を保育所, 乳児院等に派遣

5障害のある人の自立支援

- 施策第1階層を追加
(4)住宅バリアフリー対策改修費への助成

7安心なくらしの保障

(2)各種給付制度の運営

国民健康保険制度の適正な執行

- 未収保険料の徴収対策に努めること。リストラ等で収入のない者への保険料減免措置を掲げる。

9みどり豊かな居住環境

(1)ゆとりの居住環境

住居表示の推進

- 地域(合併旧市町村)にモデル地域を設け住居表示の推進を掲げる。

10快適で安全な生活基盤づくり

(3)上下水道の充実

- 「上水道の充実・下水道の普及促進」別々の項目に分ける。

教育文化都市

2自分の力に自信をもつ心豊かな子ども

(2)豊かな心と健やかな体の育成

- 施策第2階層を追加
「教育ビジョン」にある低年齢児からの「いのちの教育・こころの教育」の項目を挿入

3生涯を通じて学び育つ新潟市民

(1)学習機会の充実

- 施策第2階層を追加
地域における生涯学習活動への支援

意見の概要

5文化の振興

(1)個性ある文化の創造と発信

文化施設の整備

- 施策第2階層の削除を。
各地区充足しているので、新設は不要。既存施設並びに学校、公民館等の活用をお願いしたい。所有財産を貸し合うなど、ソフト事業に工夫を凝らすことで、他地区へでかけなくともよくなる。

(3)歴史・文化遺産の継承と発信

- 施策第2階層を追加
市民、民間保持者の貴重歴史物、資料の提供、発掘

6まちづくりに生かす生涯スポーツ

(1)生涯にわたるスポーツ活動の推進

- 施策第2階層を追加
リフレッシュスポーツ、健康スポーツの普及向上に向けプロ選手、有名人等の講演、研修会等を開催します。

その他

- グラフなどを用いて現状がどのような状況となっているか、また、今後はどうあるべきかを市民に対して訴えていく必要がある。
- 地域活動の主体性が求められると思うが、その大前提として市・区役所からの情報提供やサポートが必要
- 日本海の拠点づくりで、農産物の輸出に限らず、各区の特産品を輸出することで経済力を拡大し、赤字解消の一手段にできないか。観光についても同じ。
- 一般的に使用されていない文言やイメージのわかりづらい文言がところどころにある。老若男女多くの人たちが目にするものであり、分かりやすい表現をこころがけていただきたい。
- 合併マニフェストでは、「日本海政令市」、「田園型政令市」、「分権型政令市」という順番なのに、素案では地方分権が先になっている。地方分権の重要性はわかるが、夢を感じることができない。日本海側初の政令市として日本全体、北陸地方、県内に与える影響が非常に大きくなると思うし、そうならなければならない。よって「日本海政令市」としてどのような時代背景をもとにどのような方向性を目指すべきなのかが先にくるべき。

区ビジョン基本方針

1区

- 区の優位性や拠点性に対する認識が不十分。
- 区の優位性や拠点性を再認識した上で、オリジナリティの高い施策の方向の明確化を。
- 白新線の複線化。
- 羽越線の高速化。
- 1区内のどこからでも最寄りの駅に行けるバス路線の開設。

2区

- LRTやモノレール等による空港アクセスの向上を。
- 職住近接は工場に隣接する場合公害にさらされる度合いが大きい。公害防止対策の強化を。
- 臨港地域の水害対策の充実を。
- 高齢者世帯の増加に対応した、安心して生活できる環境づくりを。
- 空港アクセス強化の手段として、新潟駅から山の下地区を経由するモノレールの新設を。
- 地区内にじゅんさい池や河渡地区の中心であった物見山があり、この跡地に歴史博物館を建設してはどうか。
- 「世界と共生するまち」は住民にはわかりにくい。

3区

- 新公共交通機関整備建設の検討を。
- 新都市交通網の整備による、万代島地区、古町地区及び鳥屋野潟南部地区への交通アクセスの向上を。

4区

- 旧市と旧町とのアンバランスを解消して区内のバランスのとれた一体感の醸成が大切。
- 「緑」という表現が漠然としており、適切ではない。
- 幹線道路ではなく、具体の(仮称)新潟中央環状道路を入れたほうがよい。
- 新潟市民病院開業にともなう、医療機関の拠点づくりを。

意見の概要

5区

- 「市民活動の支援」の標題を、「スポーツや文化活動の支援と交流拠点づくり」に。
- 地域交流センターの記載を。
- 新津駅西部地区の整備の追加を。
- 403号の交通渋滞の解消のため、4車線化と磐越道の交差部にインターチェンジの設置を。
- まちづくりに向けた施策の方向で、「花き、園芸のまちづくり」の項目を追加。
- 温泉など自然資源を活かした観光交流を。
- 固有の歴史ある文化として、小須戸の商店街の歴史的な町屋の景観がある。

6区

- 「人にやさしい」ではなく、「地球にやさしい」ではないか。
- 高齢者の買い物・通勤や高校生の通学など交通が不便。区の実情にあった開発を。
- 地産地消により、おいしくて健康的な食を売り出せたらよい。
- 平和を求める宣言をしたい。
- 飲み物や食べ物をもちよって語り合える場があるとよい。
- 乳児から高校までの一貫教育を。
- 福祉の内容がはっきり示されていない。
- 目指すまちのすがたに、果物のまち を入れてはどうか。
- 新公共交通機関整備建設の検討を。

7区

- 新川の環境整備の追加を。
- JR越後線の複線化により、車の利用による郊外型社会から公共交通機関を利用したまちなか中心型社会へのシフトを。
- 新公共交通機関整備建設の検討を。

8区

- 観光拠点として、地域特産農産物等の販売や観光PRを兼ねた複合的道の駅の建設を。
- JR越後線の複線化を。

重点プラン

協働による地域づくりの推進

- 「区の立案による施策の展開」を「区の立案施策の尊重」に
- 区ビジョンについての言及を。
- 隣組や班程度の小コミュニティによる地域づくりが必要。

都市イメージの発信

意見の概要

- 「食と花」を「田園都市にいがた」に
- 食と花, みなとまちのほか水の都を核とした新潟の魅力の創造を。
- 舟運の復活により, 都市イメージの発信を検討してはどうか。

みなとまち新潟の魅力づくり

- 古町地区のほか, 西大畑地区も含めたまちなか整備を。
- 小澤邸の整備だけでなく, 周辺も含めた景観整備が必要。

水辺のまちづくり

- 秋葉丘陵は新潟市の魅力のひとつとして十分にアピール可能。項目の新設を。

快適な住環境の創出

- 都心居住の促進には, 共同住宅の供給のほか, 空家など既存の住宅の活用も重要。

公共交通の充実

- LRTなど新しい交通システムの検討も今後継続していかなければならない。
- 新公共交通機関整備建設の検討を。

環境先進都市の構築

- 廃棄物の減量・リサイクルに加え, エネルギー回収の推進を。

安全な暮らしの確保

- 電気・ガスなどのライフラインの確保に, 「水」の追加を。

健康社会の実現

- 「地区組織活動の推進」は, 概念的に政策プランに合致しないのでは。
- 生涯学習の推進の施策の追加を。

全体

- 子どもが生まれ育ち, 進学, 就職, 住まいなどの家族の視点を。
- 15のテーマの中に「福祉」の視点が欠けている。
- 「健康社会づくり」と「福祉社会づくり」あるいは「共生社会づくり」という視点を一体化(複合化)したプランを明確化する必要がある。
- 高齢者・障害者福祉, 生涯学習, 教育改革の取組みを入れる。

その他

- ・共通の目標が近隣区にある場合は、施設等の建設は区域を越えた広域的な視点で選定すべき。
- ・サミット会場に澤将監の館の活用を。
- ・男女共同参画を政策のひとつとしてあげてほしい。
- ・児童福祉の基本方針として、保育環境の整備や子育て支援の充実など具体的に書き込んでほしい。
- ・郷土芸能の保存や歴史文書の収集・保存など、新潟市の文化遺産の継承を。
- ・新潟市を緑あふれるまちにするための研究会の設置を。